

高松・備五峰産業

自分らしい供養を求める手元供養

大切な故人を、いつまでも身近に

亡くなった人をいつでも偲ぶことができるよう、遺骨を保管したり加工したりして身近に置く「手元供養」。数年前より新たな供養方法として登場し、ここ数年、静かなブームになりつつある。石材業界からは、庵治産地で採掘・土木関連の仕事を行っている備五峰産業がいち早く取り組み、これまでに納骨タイプの「ふれ愛」[®]、「笑くぼ」をはじめ、彫刻家とのコラボレーション作品など8作品を開発し、全国各地からの注文が相次いでいる。「これまでのお墓に変わるものとして提案しているのではなく、供養産業に携わる墓石業界だからこそ、新しいニーズに対応していく姿勢が必要では」と投げかける同社・滝内孝一社長に、開発にいたるきっかけ、作品のコンセプト、手元供養に関する現状などについて聞いてみた。

お墓も仏壇もあって、手元供養もする そういった方は多くいます

「ふれ愛」をはじめとする手元供養作品の開発経緯を教えてください。

滝内孝一社長（以下、滝内） これまでのお墓を決して否定的に捉えているのではないことを、まずご理解いただきたいのですが、私自身お墓に対して何か物足りなさを感じていたんですね。もともと当社は庵治石の採掘業者ですので、お墓の加工や販売については素人同然。いわゆる一般ユーザーに近い視点だったと思うのですが、お墓に向かって手

を合わせるだけでは何か物足りなかつたんです。そこで、ジャパンストーンフェア（2003）に出展するのをきっかけに、身近に置いて、なおかつ触れて、心の拠り所になるようなお墓があっても良いんじゃないかと思いついたのが、「ふれ愛」でした。

実際にそういった経験のある人はわかんと思うのですが、大切な方に先立たれて、残された方というのは、どこかで故人と区切りを付けたけれど、なかなか付けないという方が多いと思います。購入される方が共通点はあるのでしょうか？

「ふれ愛」は、中々には理解してくる人もいないだろう」と作ってみたいところ、一般のマスコミに取り上げられるなどし、予想以上の反響がありました。最近では電話やメールでの問い合わせも多く、一ヶ月で20人以上の申し込みがあります。徐々にではありますが、浸透してきているような感じですね。

どういった思いで作品を作っているか 大切なものは価格ではなく「コンセプト」です

昨年には手元供養協会という組織が立ち上がりまして、手元供養品を扱っている7社で組織しているのですが、現在の活動としては展示会等への共同出展や共同パンフレットの作成な



庵治石製の「ふれ愛」。お骨入れは供養石の下に用意されている
※商標・意匠登録済並びに申請中、著作権は五峰に
属しデザイン等の無断使用を固くお断り致します。



滝内 孝一社長



6月27～28日まで、横浜で開催されたフューネラルフェアにも手元供養協会として出品、注目を集めていた。

滝内 基本的に故人に対する思い入れが強い方が多いですが、一概に枠を作るようなことは出来ませんね。それぞれに思い入れが違いますし、環境も違います。ただ、今までだったらお墓も買う、仏壇も買う、お寺の本山にも納骨する。それで一周忌の法要などをしたいということが一連の流れだったと思いますが、それでは満足できない人がいるのは事実です。お墓を建てて、仏壇も持っていて、手元供養もする。そういった方は多くいます。

また、幼いお子さんや、お連れ合いを亡くされて、寂しさから遺骨を離したくないという人もいますし、経済的な理由などから、お墓を建立できないという人も多く、一ヶ月で20人以上の申し込みがあります。徐々にではありますが、浸透してきているような感じですね。

「扱っている石材店も増えていると聞きました。」
滝内 そうですね。ただ、私が必ず申し上げていることは「ただ単に置いたからって売れるものではない」ということ。また、お彼岸セールだからといって50%オフにすれば売れるかというところ、お客様はそういったことを求めている。何よりコンセプトが大切なんです。そういった思いで、作品を作っているのか。それを理解せずに、ただ単にモノとして扱っているような所には、恐縮ですが、こちらからご遠慮させていただきます。

「石材店の仕事というのは、目に見えないところを扱っているわけですからね。」
滝内 今の時代はお金さえあれば何でも手に入るような便利な時代じゃないですか。でも、そうやって便利な生活を手にした結果、副作用として子が親を殺したりするような信じられない事件が起きている。

現代は便利になった反面、特に都会においては仏壇やお墓も要らない、もしくは欲しいけど持てないという人も多くなっている。そういったところの子どもは親が手を合わせている姿を見るのができず、結果的に生や死の尊さを知らずに育ってしまっている。薄れ掛けている心の優しさとか、人を大切に思える心の醸成を図っていくことは、我々業界人にとつての使命だと思えます。お付き合いができませんが、手元供養を通して、この役割を少しでも果たしていければと考えています。

「種類も多そうですね。」
滝内 手元供養のタイプには2種類あって、一つは遺骨の一部を納めるタイプ。もう一つは遺灰や遺骨を加工するタイプ。遺骨の一部を納めるタイプは当社が石彫オブジェや陶器作品、ミニ骨董など。また加工するタイプのものとしてはセラミック製結晶石オブジェ、プレート、ペリト、ペリト、ダイヤモンドなどです。こういった選

「愛らしい表情が特徴の「笑くぼ」」
※商標・意匠登録済並びに申請中、著作権は五峰に属しデザイン等の無断使用を固くお断り致します。



愛らしい表情が特徴の「笑くぼ」
※商標・意匠登録済並びに申請中、著作権は五峰に属しデザイン等の無断使用を固くお断り致します。



「笑くぼ」と納骨容器



取材当日に訪れたお客様との談笑風景。「これまでお墓に納骨することをためらってきた母の遺骨。笑くぼを購入をきっかけに、ようやく踏ん切りがきました」とお客様。

「本日が多用のところ、ありがとございました。」
◆備五峰産業
香川県高松市庵治町379-8-1
TEL 087-871-3010
FAX 087-871-3898
http://www.ajishi.jp